

# 被災地の手仕事 ×マスを飾る

## 上野駅のツリーに星やハート 女性50人、販売も

台東区のJR上野駅構内のクリスマスツリーに飾られたハートや星のオーナメント。いずれも東日本大震災の被災地で女性たちが手づくりしたもので、「東北グランマのクリスマスオーナメント」と名付けられている。クリスマスシーズンを迎え、都内各地で展示や販売が始まっている。

オーナメントを作るのは、岩手県の久慈市や陸前高田市、宮城県の石巻市や南三陸町で被災した30代から70代の女性たち約50人。漁師町ではワカメやウニ漁、久慈市では縫製工場での仕事などで生計を立てていたが、震災後、職を失った。

「被災地のお母さんたちに仕事を作り、被災地とその他の地域をつなごう」。6月、そんな思いで集まった関東のボランティアらが石巻市北上町の大指地区にある避難所に企画を提案したのが始まりだ。現地の女性たちと話し合った結果、「誰かが喜ぶ姿が想像できる」クリスマスオーナメントを作ることになった。

大きなものは星やハート。

小さなものは熊や雪だるま、キャンディーなど様々な形がある。オーガニックコットンの端切れを色とりどりの刺繍糸で縫い合わせ、リボンを付けた。大きいものは1個、小さいものは5個単位で販売し、1セット千円。1セットあたり200〜400円が作り手の収入になり、これまでに2万5千セットが売れた。

「最初は、こんな売れないと思った」と大指地区の武山洋子さん(57)。自宅は津波で流され、仮設住宅に夫と長男と身を寄せている。

震災以前は家族でワカメやホタテの養殖をしてきた武山さんにとって、針仕事はなじ

## 「誰かが喜ぶ姿、想像できる」

みがなかった。それでも「みんなで作れるところまでやろうか」と話し、10人の女性たちが集まった。デザインや縫い方も話し合いながら工夫を重ねた。震災後、やり場のない気持ちを抱えて避難所で暮らしていたが、みんなが集まったのオーナメント作りは「お互いに癒やしたり癒やされたり、心をつなげる場に来た」。これまで縫い上げたオーナメントは一人当たり約2千個になる。

オーナメント作りを企画したのは、会社経営者や会社員らが震災後に結成した一般社団法人「チームともだち」。震災直後から被災地に入り、仕事作りのプロジェクトなどを進めてきた。代表の登内芳也さん(44)は「コミュニティをつなぐツールである仕事を作ることに同時に、オーナメントを通じて東北のことを知ってもらうことも目的」と話す。



北、上野。つた思いは Your heart  
JR上野駅構内に飾られたクリスマスツリー。オーナメントは南三陸町の女性たちが作った



展示はアトレ上野などで見られる。インターネットでの販売や取り扱い店舗は「グランマプロジェクト」のホームページ (<http://grandma-project.jp/>)。 (松本千聖)

自分たちが作ったオーナメントを持つ大指地区の「グランマ」たち=いずれも台東区